

本づくり応援マガジン

ゆるり

昭和堂・ゆるりで
出版された本のご紹介

vol.36

特集

「想いを遺す」



■田川 憲 居留地の廃屋 1956年 木版・紙『風化の街』シリーズ／長崎県美術館

長崎の美術6

●「田川 憲」

長崎県美術館

●「写真集「長崎」第10集」

長崎市写真団体合同展実行委員会

生きた、愛した、そして撮った

●「松尾弘 遺作写真&memorial」

俳句で綴る長崎の名所

●「長崎の吟行地」

山田 久

明治二十年から昭和二十五年まで

●「新聞が伝えた諏訪神事 長崎くんち」

土肥原弘久

世界遺産

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

●「公式ガイドブック探訪 長崎の教会群」

長崎の教会群情報センター

長崎市公会堂の顛末とその後

●「宝箱の破壊とシビックプライド」

長崎都市遺産研究会・編

悔いのない人生を生きる

●「バイクで38度線へ」

野中 豊

今こそ明かされる噴火災害の真相

●「雲仙普賢岳噴火回想録」

九大名誉教授 太田一也



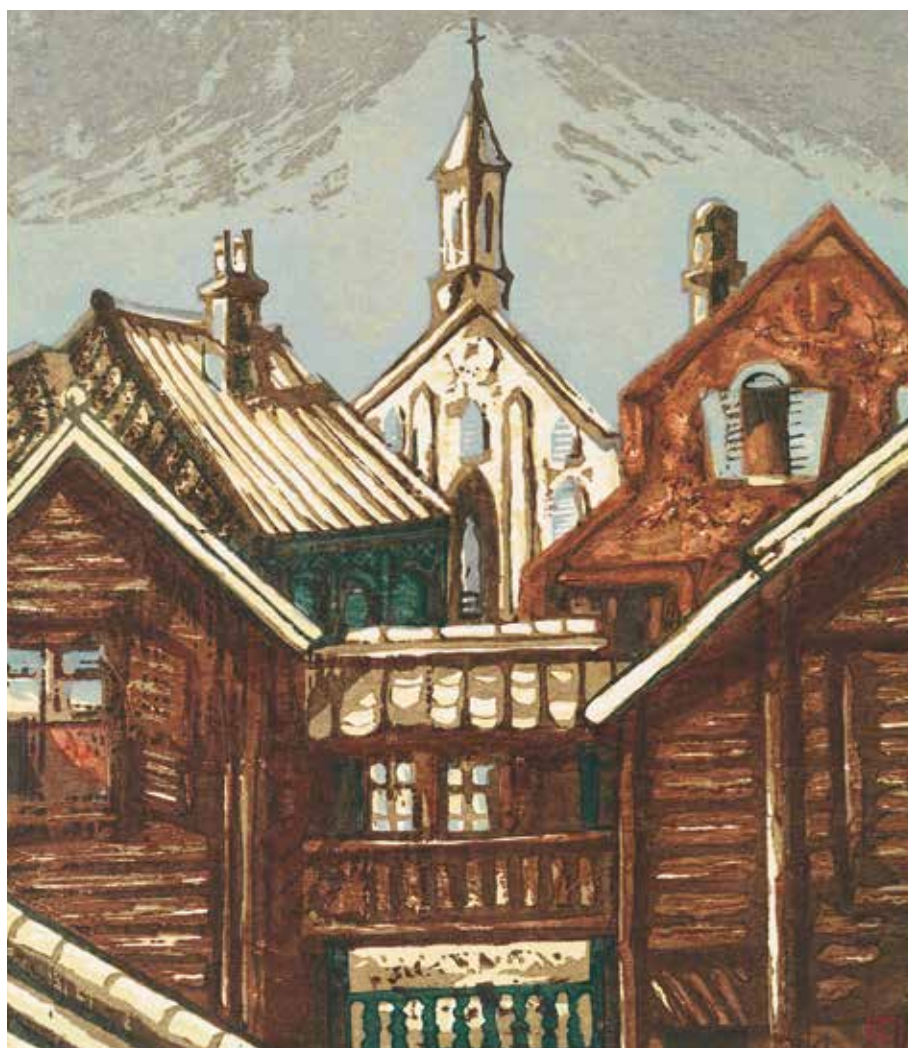
株式会社 昭和堂

「ゆるり」は長崎県内の主なコミュニティ施設に無料で配布しています。

自費出版サロンゆるり TEL:095-828-1790

田川 憲

Ken Tagawa



南山手十番
1959年
木版・紙
「ながさき・おるごおる」シリーズ
長崎県美術館

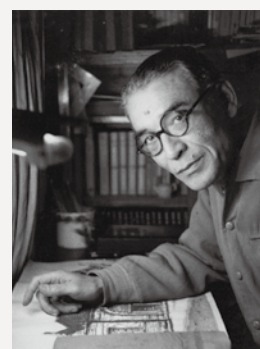


うらぶれた居留地
1965年
木版・紙
長崎県美術館



■ 判型: A4判 頁数: 198頁
定価: 2,300円(税別)
長崎県美術館発行

長崎を描いた 木版画家



田川憲(1906-1967)は、戦前・戦後を通じて長崎で活躍した木版画家です。長崎市に生まれ長崎商業学校に学びますが絵画や詩への興味やみがたく、10代後半には仲間たちと同人活動を始めます。大正末期には長崎を訪れた詩人・金子光晴との出会いによって詩への造詣を深め、昭和初期に画家を志して上京すると今度はそこで木版画家・恩地孝四郎の知己を得て「自画・自刻・自摺」を信条とする創作版画に開眼します。帰郷後は南山手十番の洋館に居を構え、エキゾチックな長崎風景を題材として精力的な制作活動を展開します。さらに詩と版画の同人を主宰し、自身の創作はもとより創作版画誌の刊行や版画講習会の開催などを通して長崎における創作版画の草分けとなりました。戦中は従軍画家として中国に渡り、上海で創作版画の会を創設して個人誌を発刊するといった活動を行っています。



長崎港遠望 1962年 木版・紙 長崎県美術館

長崎原爆遺構（浦上天主堂） 1949年／51年
木版紙「長崎風物詩」旅愁シリーズ 長崎県美術館



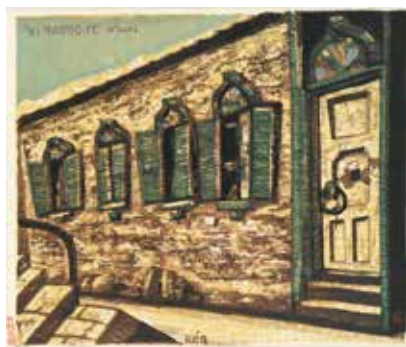
白い木の魚 1956年 木版・紙
「風化の街」シリーズ 長崎県美術館



長崎バンド 1957年
木版紙「ながさき・おるごおる」シリーズ 長崎県美術館



異人館の煙突 1966年
木版・紙 長崎県美術館



ユダヤ教会 1959年
木版・紙 「ながさき・おるごおる」シリーズ 長崎県美術館



オークションの店 1958年
木版・紙 「ながさき・おるごおる」シリーズ 長崎県美術館

※現在、これらの作品は展示されておりません。



長崎県美術館

開館時間:10時～20時(展示室への入場は19時30分)
休館日:第2・4月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始
観覧料金:
〔コレクション展〕一般400円、大学生・70歳以上300円、
小中高生200円(県内の小中学生は無料) ※企画展は別途
長崎市出島町2-1 TEL095-833-2110
www.nagasaki-museum.jp

そして第二次世界大戦終結とともに上海を離れると、五島と山鹿(熊本)に滞在したのち、1949年に帰郷します。以後は長崎市を拠点に、生涯にわたって洋館や唐寺のある異国情緒を湛えた長崎の風景を描き続けました。

なお田川は戦後、洋館および居留地の景観保存を提唱しますが、その願いをよそに多くの洋館が失われました。そこである時点から彼は失われゆく居留地の姿を「版画として残す」ことを使命として自らに課すこととなります。そのため特に晩年の風景作品には、古き良き時代の長崎への哀惜を色濃く反映したものが見いだされます。

(「こあいさつ」より抜粋)

長崎市写真団体合同展実行委員会編

第45回記念写真集 長崎 第10集発刊される



6月1日は「写真の日」



上野彦馬像



A4判 本文88頁
掲載作品126点

越えて、45年も

の間合同での写真展を継続出来たのは驚異的だと思います。

長崎市写真団体合同展の参加団体は昭和から平成を歩み続けて新たな時代を迎えようとしています。長崎の写真愛好家の誇りをかけた、一貫した熱い心とまなざしはいささかも変化することなく継続し、結集し、現在を迎えています。

5年毎に各クラブのテーマを「長崎」に統一して写真展を開催し、記念写真集を発刊し、今回で第10集目となります。14クラブ126名の歴史・自然・文化・暮らし・人々の表情などさまざまな長崎にこだわった作品を掲載しています。

継続は力なり さらなる前進を

実行委員長 徳永 一雄

第1回の合同展が写真発祥の地長崎で写真愛好家の結集によって開催されたのは1974年(昭和49年)でした。それから45年、その間一回も中断することなく続けてまいりました。

参加するクラブが撮影に取り組む会員の姿勢や視点・価値観等、様々な違いや困難に直面しながらもそれらを乗り越

長崎の写真文化遺産

村里 榮

合同写真展45回、写真集「長崎」第10集。思えば遙くも遠くへきたもんだ。と感慨深いものがあります。全国的にもきわめて珍しい、かくも長きにわたって、今日まで続けてこられたのも、日本写真発祥の地の写真クラブの皆さんの、自負と責任と誇りであったと思います。意地も少しはあったかもしれません。写真集の編集にしても、まったくの手探り状態で何日も徹夜したのも今は昔。想い出の彼方



春の訪れ

岩永 聡

〔連絡先〕岩永 聡
長崎市西北町7-3・106
☎095・847・5075

全日本写真連盟長崎支部
です。全10集を重ねてみると、そこには長崎の45年間がしっかりと写し込められています。「長崎の写真文化遺産」言い過ぎ



賢人たちの午後

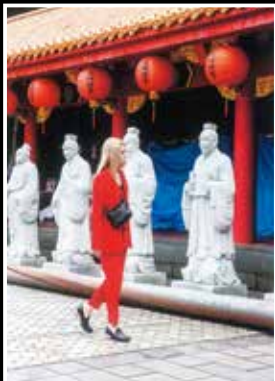
永池健次郎

〔連絡先〕永池健次郎
諫早市飯盛町開1165・21
☎090・22858・5906

楕円フォトクラブ
ぎでしようか。45年間、最初から今日まで陰に陽に関わって来られた幸せを、今はしみじみと噛みしめております。

写真同好会「龍馬」

〔連絡先〕深堀 武彦
長崎市宝栄町6-20
☎095-861-9284



春節の孔子廟

深堀 武彦

P+ Gallery

〔連絡先〕山崎 陽
長崎市元船町7-9 岡橋ビル1F
☎095-823-1715



Window pane 一大波止ターミナル
山崎 陽

写真サークルに
参加しませんか?
楽しい仲間が
いっぱいです!!



変わりゆくわが町 ー青山町ー 村里 榮

【連絡先】村里 榮
長崎市花園町28・5
☎095・861・8350



街道をゆく 牟田 隆也

【連絡先】牟田 隆也
長崎市松原町2560
☎095・839・3550

写真同好会「彦馬」

【連絡先】片山 倉吉
西彼杵郡長与町吉無田郷
1221・84 ☎095・887・3167



大漁旗 片山 倉吉

新婦人写真クラブ「エリカ」

【連絡先】前川 美穂
長崎小江原1・32・6
☎050・3444・1707



「ニャーに?」 前川 美穂



ランタン娘 荒木 鎌太

【連絡先】荒木 鎌太
長崎市大浜町650・30
☎095・865・4355



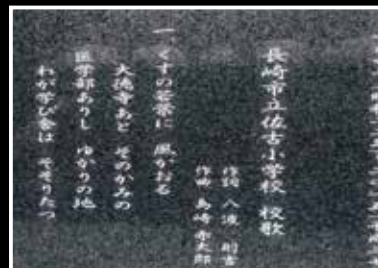
ランタンフェスティバル 前波 政昭

【連絡先】前波 政昭
諫早市西栄田町1186・24
☎095・726・0612



ミサの日 有村 勝郎

【連絡先】有村 勝郎
西彼杵郡時津町浜田郷572・23
☎095・882・8181



廃校記念碑に刻まれた校歌 吉田 恒雄

【連絡先】吉田 恒雄
長崎市ダイヤランド1丁目31・14
☎095・879・3326



夜の明り(どんの山公園) 田口 二郎

【連絡先】田口 二郎
長崎市晴海台町35・3
☎095・892・1494



昼下りの茶畑 徳永 一雄

【連絡先】徳永 一雄
西彼杵郡長与町嬉里郷113・6
☎095・883・4331

「長崎」をテーマに5年毎に写真集を発行されてきました。長崎の45年間の姿がここに残されています。5年後の50回記念が楽しみです。



1集 1978年



2集 1979年



3集 1983年



4集 1988年



5集 1993年



6集 1998年



7集 2003年



8集 2008年



9集 2013年

松尾 弘 遺作写真 & *memorial* 生きた、愛した、そして撮った 写真歴50年のアルバム



A4判 64頁 非売品



第4回「視点」展 奨励賞受賞作品 「戦後開拓村—入植30年」より 1978年撮影



第4回「視点」展 奨励賞受賞記念 土門拳先生、榮子夫人と



軍艦島 1967年～1968年



戦争遺構 川棚・片島魚雷発射試験場跡



農と里山の風景

◎松尾 弘 プロフィール

1939年11月伊万里市大坪町屋敷野 生まれる

1958年3月長崎放送(株)勤務

1966年JRP長崎支部を数人の仲間と結成

2002年6月長崎放送(株)常務取締役退任・退社

2006年6月(株)テレコムサービス社長退任

2007年大村へ転居

2017年2月13日逝去(享年77歳)

松尾さんは生きている

人は二度死ぬと言われることがある。一度は、生命が絶たれた時。もう一度は、人の記憶から忘れ去られた時。わたしと松尾さんとは五十年以上の付き合いであるが、ただの一度も嫌な思い出がない。

遺作集を作るにあたって、彼のデーターボックスを開けてみて驚いてしまった。例会や支部展で見る作品はほんの一部で、思いのほか行動的、かつ多岐にわたる膨大な写真群に圧倒され、開けたら大変。黒崎さんと見なかった事にしようということにした。まさにパンドラの箱。この箱を開けるのは歴史である。その時まで、松尾さんは生き続けているのである。 JRP長崎支部長 村里 榮

長崎地方は、「馬酔木」「狩」「青嶺」「ホトトギス」「沖」等をはじめとして、多くの会派があり俳句の盛んな所である。

作句のためには、まず吟行が必要である。

それから句会である。

本書は、長崎の主要な吟行地二十四カ所を選んで説明し、同時に作句された俳句を提示して

鳴滝塾跡

シーボルトが一八二四年に開講した鳴滝塾の跡は、史跡として今も大切に保存されている。この二ヘクタールの広さの跡地の右手の丘には、シーボルト記念館が建設され、シーボルトゆかりの品々や生涯の業績を示す資料が展示されている。

子の両先生であらう。
夏木さへ蘭医蘭学昔かな

松根東洋城
鴨脚草^{鴨のた}この井湧きにし日をおもう
水原秋桜子

胸像の前方には、向って右側には十畳敷程度の書斎跡と、左側には少し大きい居宅跡がある。

胸像は冬寂び竹根蟠る^{わたかま}

山口 誓子

濃みどりのザボン午前の雨滴
残る 沢木 欣一

この鳴滝川に沿う道を、現在シーボルト通りといい、石畳が敷かれ、風情のある遊歩道となっている。いくつかの辻をまがって鳴滝塾の跡に到る。特に木の葉が色づく秋の頃は美しい。

長崎にはたくさんの
俳句吟行地がある

●鳴滝塾跡

●シーボルト記念館

●西坂・二十六聖人殉教地

●ハタ揚げ

●爆心地とその周辺

●ペーロン競漕

●庭見せ^{とく}とおくんち^ち

●崇福寺と中国盆

●中島川と眼鏡橋

●大浦天主堂

●浦上天主堂

●ランタンフェスティバルと元宵祭

●如己堂と永井隆記念館

●出 島

●グラバー園

●オランダ坂とその周辺

●孔子廟

●花月、丸山とその周辺

●深堀と高木騒動

●坂本および稲佐国際墓地

●ポンペ会館とポンペの実験

●興 福 寺

●小説「沈黙」と遠藤周作文学館

●伊 王 島

過ぎゆく長崎の風情を留める俳句吟行記24話

長崎の吟行地

山田 久 著



解説を加えた。

この作品は、長崎県医師会報に平成十一年四月号より二十四回にわたって連載したものである。

皆様の作句に少しでも役立つ所があればと念願している。

(はじめにより抜粋)

本編より「鳴滝塾跡」の一部をご紹介します。

構内の奥、中央にはシーボルト晩年の重厚な胸像が建っている。その胸像の両脇には、二基の古い井戸がある。

当時の塾生達の生活用水として、また患者の一般診療や手術にも利用されたものと考えられる。

この鳴滝塾跡を訪れた俳人として、古い時代の代表は、何といても松根東洋城と水原秋桜

露涼し方十尺の書斎跡

下村ひろし

囀りや鬚髯ゆたけき医聖像

築城百々平

敷地の背後は丘となっており、かなり大きな孟宗竹の集落があり、常緑樹の巨木がみられる。

敷地の右手には大きな「ざばん」の木があり、これもシーボルト時代のものと考えられる。

い。

黄葉の道いくまがり医塾跡

山田ひさし



新聞が伝えた諏訪神事

長崎くんち

明治二十年から昭和二十五年まで

Donihara Hirohisa

土肥原 弘久



判型:A5判/頁数:318頁
製本:ガンダレ製本
定価:2,000円(税別)
お求めは、好文堂書店、
長崎歴史文化博物館売店

還御(御神
輿の往還)、
踊町による
奉納踊、そ
の準備のた
めの諸行事
が、ほぼ一
年間にわ
たって行わ

いないのである。

一方、長崎歴史文化博物館及び長崎県立長崎図書館には、数多くの郷土資料が収蔵されているが、その中に、明治期以降に長崎で発行された地方新聞の多くも含まれている。そこで、明治

長崎民友新聞の各紙から関係する記事を抽出することにした。これを「神事・神輿守」に関するもの及び「奉納踊」に関するものに分け、各年代に区分して整理した。

期以降、大正、昭和に至る近代期の諏訪神事の有り様について、それらの新聞記事の中から情報を得ることにした。

具体的には、諏訪神事についてまとまった形での記事掲載が始まっている明治二十年(一八八七)から終戦直後の混乱が治まりつつある

記事を読み進めていくことで、諏訪神事に関わってこられた先人たちの深い思いや熱意に接することができたと考えています。この百数十年の間でも、疫病の流行、戦争、天災がありながら、諏訪神事は、その執行日時や形態に変更が生じても途絶えるこ

となく営まれてきました。この作業を進めながら、祭禮に携わり奉仕されてこられた歴代の宮司様はじめ神職の方々、祭禮の趣旨である御神威の再生のため、その年毎の奉仕を怠ることなく務めてこられた神輿守町の方々、神々への感謝の気持ちで奉納踊という形にしてお伝えするため、に創意工夫とたゆまぬ努力を重ねてこられた踊町の方々、さらに、多くの先人達が心を一つにしてこられたことを認識できたと思っています。



土肥原 弘久(どひはらひろひさ)

前長崎市長崎学研究所 所長
昭和32年 長崎市生まれ
平成17年からKTNテレビ長崎
くんち中継解説者

著書

「精霊流しについて」

「長崎くんち 神様を擔ぐ男達」

「長崎くんちのしくみ」

「見えないものを伝える」

諏訪神事 取材記録 年度版」

他多数

「諏訪神事」(長崎くんち)は、長崎の氏神様・鎮西大社諏訪神社(以下「諏訪神社」)の例大祭である。例大祭は、神社で一番大切なお祭りで、氏子たちが、神様のご加護とご神恩に感謝し、踊りやお供物を捧げて、また次の一年間、お護りいただくことを願う行事である。諏訪神社の例大祭は、寛永十一年(一六三四)以来、三八〇有余年の伝統を誇り、国指定重要無形民俗文化財に指定されている奉納踊により広く知られている。

諏訪神事においては、神職によって執行される神事を中心行事として、神輿守町による渡御・

れている。それらは、すべてが、諏訪の神々のまなざしのもとに、歴史と伝統を踏まえ、長年受け継がれてきた様々な作法や美しい習わしに基づき、整然と行われてきている。そこには、氏子である長崎の人々の美意識、矜持、郷土愛を見る事が出来るのである。

しかし、この諏訪神事が、過去のどのように営まれてきたのかについては、資料が乏しく詳しい実態が明らかにされていない。明治・大正、昭和初期については、絵葉書、写真、傘鉾の絵図等が残っているだけで、まとまった記録や書物はほとんど存在して

でを対象に、収蔵されている鎮西日報、東洋日の出新聞、長崎新聞、九州日の出新聞、長崎日日新聞、長崎日報、



世界遺産

長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産

公式ガイドブック

「探訪 長崎の教会群」 地域版5冊

脇田 安大 著

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は2007年に世界遺産に暫定登録され、その後名称を「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更して2018年6月末、正式に登録されました。

20年近く前から教会群の世界遺産登録運動にかかわってきた私としては喜ばしい限りです。一方で、ユネスコの委託を受けた審査機関イコモスがどれほど深い審査をしたのか知りません

が、当初の資産から幾つかを外されたのが不可思議で、複雑な気持ちでもあります。

私のキリスト教との出会い

三重県の伊勢神宮のおひざ元で育った私は、東京の結婚式で初めて教会に入ると西洋的雰囲気、に圧迫されました。しかし、転勤で長崎に落ち着き、教会に立ち寄ってみるとなぜか違和感はありませんでした。特に五島の教会とそれを取り

巻く畑、そこで祈る人々の姿は、幼い頃に過ごした原風景と似た懐かしさを感じました。高度経済成長で豊かな生活を手に入れる半面、失った人間性と精神性が残されていたからではないかと思っています。

これを機会に「長崎の教会」に興味を持ち、その歴史と人々の暮らしに興味を持つようになりました。一般的には知られていない教会にも、感動的ドラマが数々あります。

本書の構成

本書は、世界文化遺産になったごく少数の教会だけではなく、長崎県と天草地方の全てのカトリック教会を①長崎地域、②平戸・北松、③大村・西海外海、④島原・天草、⑤五島列島の地域別に紹介しています。

またキリスト教伝来期の遺跡や、第二次大戦後の比較的新しい教会などもカバーし、地域別に①伝来と繁栄、②禁教と潜伏、③復活と発展が分かるように工夫しました。

さらにカトリックに復帰せず、潜伏時代の信仰形態や習慣を守り続けたカクレキリシタンの現状についても、簡単に触れています。

「君の宗教は何か」と問われると、伊勢出身なので家系は「一応「神道」ですが、無宗教と言うのが実態です。です、カトリック信者の方からすると、キリスト教の神髄を知らない者が教会を語るのには不謹慎との思いを抱かれるかもしれません。そこは「素人がみると教会はこう見えるのか」と許して頂ければ幸いです。

過疎化と教会

かつて日本の農漁村は、日の出とともに起き、山の薪で暖を

取り、自然と共生する生活を送ってきました。嵐などの自然の脅威に翻弄され、病気を治す医者もおらず、潜伏キリシタンは神に祈る生活を送ってきたといえます。

幕末の信徒発見以降、浦上四番崩れや五島列島などの大弾圧がありました。これに耐えてカトリックに復帰しました。大正・昭和と人口は増えて生活レベルも上がり、教会も活気あふれる時代を迎えました。

しかし第二次大戦後、高度経済成長が生んだ物質文明により、「神」の存在感が薄れました。さらに離島を中心に高齢化と過疎化が進んでいます。この波は容赦なく教会も襲い、信者の集団移転で廃止された教会もあります。

一方で、最近の若者の中には、豊かな自然の中で暮らすスタイルも強まっています。世界遺産登録がきっかけになり、こうした人たちが教会を訪れ、そこに住んでみようと思ってくただけことが、私の願いです。

著者略歴

脇田 安大（わきた やすひろ）

昭和27年 三重県伊勢市生まれ
昭和51年 日本銀行入行
平成11年 日本銀行長崎支店長
平成14年 ながさき地域政策研究所
平成19年 （兼務）NPO世界遺産長崎
チャーチトラスト



●判型:B5判
●定価:各1,000円＋税
お求めは県下主要書店にて

発行:
長崎の教会群情報センター
〒850-0862
長崎市出島町1-1-205
(出島ワーフ2階)
TEL 095-823-7650



(撮影 Tasuku Kusano)
インスタグラムに掲載された写真
2017/6/12

長崎市公会堂の顛末とその後 宝箱の破壊とシビックプライド

長崎市遺産研究会・編

公会堂の保存活動は、当初長崎市民にとって、単なる「建築の保存活動」という理解の範疇に留まっていたように思います。しかし建築の誕生の経緯や使命が明らかになっていくうちに、その大切さに市民が気づき、歴史遺産としての価値認識が芽生えました。公会堂を保存し、再生する方向に舵を切り直すことは、その時点では十分に可能であったように思いますが、長崎市の方針は最後まで変わることはありませんでした。

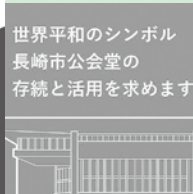
長崎市公会堂を含む6つの長崎国際文化都市センターの中核施設は、建築誕生の時から都市を再起させる使命を帯びていました。国際文化都市センター設置の計画が始まったのは、昭和30年です。設立準備委員会の趣意文には次のように記されています。

「長崎国際文化都市建設法」にはっきり、うたわれているとおり、国際文化の向上を図って、恒久平和の理想を達成することは、真に長崎市民に負わされた神の使命であると思われる。

再起はもとの姿に戻すことではない、あたらしい姿を生み出すことである。戦争によって失われた災害は物理的に立て直すことができよう。併し、問題は精神的な立ち上がりである。原爆で廃墟となった長崎の地で展開されている建設運動で、数万の貧しい人々の毎月の献金によって展開されていることを見た。私はまさに再起を長崎で発見し、最大の尊敬を表し世界に支援を呼びかけた。



署名呼びかけポスター
(挿絵提供 インテックス)



公会堂の未来活用を問う会が
配布したチラシ



壊され傷つけられたものは
公会堂を愛してやまなかった人々の心

くずれゆく巨人を介抱することも抱くこともできず、ただただ遠くでひっそり涙を流した先人からのすばらしい贈り物を私たちは失った。

■判型:B5判
頁数:本文112頁
定価:1,000円+税
お求めは好文堂書店 他



そのような中で建設された歴史的建築遺産ともいえる長崎市公会堂を人によって失った損失は、計り知れないと考えます。なぜ、長崎固有の歴史の証である建築遺産を遺せなかったか、その経過を記録に留め、歴史に問いたいと思います。

振り返ってみると、いくつかの問題点が見えてきます。

なぜ、代替施設も予定されていない文化施設が解体されたのか。田上富久長崎市長が市民に問うたと言い続けてきた根拠となる「検討委員会」や「市民懇話会」は、解体ありきといえる資料内容で、真に市民に聞いたという姿勢は見られなかったように思えます。

長崎市公会堂の存続を訴える活動は、一貫して長崎市の事業に対する反対運動として展開してはいません。長崎市民や建築家等の学識経験者が長崎市長に署名嘆願を行い、計画内容に説明を求めたことが始まりでした。説明要求は無視され、徐々に市民の権利を執行していく陳情や住民投票条例の請求にエスカレートして

いき、次第に反対運動者的扱いをされるようになりました。それは、不本意としか言いようがありませんでした。というのは、私たちの心の中にあったのは、常に、長崎という都市への誇りや愛情「シビックプライド (Civic Pride)」であり、「We love ko-kaido」だったからです。

長崎市公会堂の保存や再生提案や署名活動を通じて活動した経験を綴り、未来の国際文化都市づくりの一助となれる書籍になればと思います。

バイクで38度線へ

悔いのない人生を生きる

野中 豊

バイクで38度線へ

悔いのない人生を生きる

野中 豊



● 四六判 136頁
● 定価 1,000円+税

お求めは
ブックマート諫早
オックスフォード貝津店にて
〈好評発売中〉

二〇歳を迎えた頃からだろうか、いつの日か「自分の本」を出版してみたい、という思いを漠然と抱いてきた。七〇歳を目前にし、自分に残された時間を考えたとき、私はそれを実行に移す決意をした。

幸いに、これまで世界のさまざまな国を旅行し、普通ではできない体験をして、いろいろな趣味にも没頭してきた。

二三歳のときにはバックを背負って一人で放浪の旅へ出かけ、ソビエト連邦、ヨーロッパ諸国をめぐる、その後、オーストラリア、中国、台湾、韓国など、三〇ヶ国余りを歩き回った。また、人生後半になって、四度のクルーズ乗船を体験し、上海、釜山、済州島、日本各地の港を訪れた。

四〇歳を目前にして始めたのがゴルフである。ゴルフ競技大会への出場や日本各地のゴルフ場でプレーした思い出。タイガー・ウッズ選手のプレーを二度にわたり観戦したり、ジャン



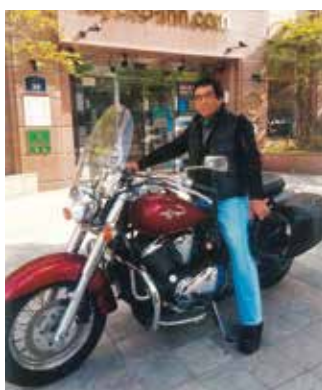
パリ市内 エッフェル塔前広場



スイス ユングフラウヨッホにて



飛鳥II 船上にて誕生パーティー



八十八ヶ所の巡礼もした。仕事や親族との人間関係に悩み、藁にもすがる思いで巡礼の旅に出て、日常生活とはまったく無縁の世界を過ごした。

将棋については二〇代後半よりはまり、羽生善治氏やテレビで見かけている有名棋士の名人戦観戦は、よい思い出である。

音楽は小さい頃から。ハーモニカから始まり、ギター、トラネット、ケナー、バイオリン、現在は大正琴、文化琴、そしてオカリナを担当し、アマチュアバンド「ひまわり」を結成して、老人ホームへの慰問や夏祭りの演奏などを、ボランティアで続けている。

そして私の本業である水の話。四三年間にわたる水道工事の知識、経験談のほか、業界の者しか知らない事柄などについて述べてみた。

最終章においては、今まで読書を通じて知っていた「あこがれの人」、「好きな人」について書いてみた。白洲次郎氏は筋の一本通った、なかなかの好人物。坂本龍馬については、司馬遼太郎氏の「竜馬がゆく」を二〇代の頃に初めて読んで関心をもち、これまで三度、京都市内にある坂本龍馬の墓参りに行っている。好奇心が人一倍強い性格で、五年間図書館に通い続け、ひと月に二〇冊余り、あらゆる分野の本を読みあさり、少しは雑学の知識が集積されたのではないかと自負している。

- 一 やりたい人 一〇〇〇人
- 二 やった人 一〇〇人
- 三 続けた人 一人

ある雑誌で見かけたこの言葉が、私は大好きである。



オカリナでボランティア活動



四国八十八ヶ所にて

著者略歴
野中 豊 (のなか ゆたか)

1948年長崎県諫早市生まれ。高校を卒業後、1970年長崎県警察官となり、政治家を志し2年で退職。23歳のときにロシア、ヨーロッパ諸国を放浪。小野中学校教育会会長、諫早東ライオンズクラブ会会長を歴任。現在は、諫早市管工業協同組合理事長、長崎県管工事組合副理事長、有限会社大豊工業代表取締役社長を務める。

アートギャラリー 好風 のご案内

人生を豊かに! 展覧会に是非お越しください。 **入場無料**

会期 11月1日(木)~5日(月)

AM 10:30~PM 6:00(最終日はPM 5:00まで)

風景を描くグループ 第9回 友美会展

風景が好きで楽しんで描いている仲間です。第9回目のグループ展を開催いたします。ご高覧、ご指導を賜りますようご案内申し上げます。



中村 秀世 霧のノイッシュパン シュタイン城

会期 11月29日(木)~12月3日(月) AM 10:30~PM 6:00(最終日はPM 5:00まで)

第24回 キルトサークル

ベアーズ・ポー作品展

毎回作品展に足を運んでくださるお客様、おしゃべり笑い声の絶えない教室のみんなに感謝の気持ちで今年も開催いたします。



坂本 智恵子 作

生徒さん募集中 浜の町教室

長崎市銅座町6-16
いりえビルお花屋さん3F
TEL090-3014-8530

教室に併設してショップを開店しています。
USAコットン・国産YUWA生地・先染め布を
始めパッチワーク用品を取り扱っています。
開店時間 10:30~16:00
(定休日 第1・3金・土、毎週日曜日)

昭和堂ギャラリー
Showado Gallery KOFU

好風

貸
ギャラリー
お申し込み
受付中

TEL.095-821-1240

FAX.095-823-8740

〒850-0875 長崎県長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

<http://www.showado.co.jp>



※駐車場がございませんので、付近の有料駐車場をご利用ください。

※展示会は都合により変更の場合もございますので事前にご確認のうえ、ご来場お願い申し上げます。



『昭和堂笑顔のレシピ』

毎週金曜 あさ10:35より

放送中きいてネ!!

あなたの本や作品をラジオでご紹介します!!



新刊ご紹介

2018年10月現在(税込額)

浦則子 追悼集
Let's go back
our home

浦
ルイ

● 非売品



詩集 ひとかけの
日常の中、小さな感動を
洩花 moca
● 1,296円



◆お申込先 〒856-0807
大村市宮小路二丁目四七三ー一
馬場 幸子

あなたと歩けば
松本 文字

● 1,512円



松本崇前大村市長と過ごした17年。
その思い出の記

好評につき増刷
龍馬の長崎物語
織田 毅著
● 1,080円



発行 亀山社中ば活かす会
亀山社中資料展示場のみの販売
長崎市伊良林二丁目二二(土旦)

米寿記念
寺嶋邑浦書作展

● 非売品



非戦へ
物語平和論

藤井 貞和



発行 編集室水平線
◆問合せ先
電話〇九五ー八〇七ー三九九九

販売本コーナー

ここでご紹介する出版本は、
サロンゆるりまでお気軽にお問い合わせください。

長崎 幻の響写真館

根本 千絵
※ 2,160円



地名はおもしろい、奥が深い
長与の地名 340の小事
久原 巻一
※ 1,296円



昭和20年8月
長崎市地図
出口 輝夫
● 540円



長崎くんち
神様を擔ぐ男達
土肥原 弘久
◆問合せ先 土肥原さんまで
電話〇九〇ー二五〇〇ー〇五九七



長崎を描いてみる
松林 重宗
● 2,160円



玉鈴 水墨画集
―墨色の千変万化に魅せられて―
田村 玉鈴
● 4,860円



加野尚志画集
平成長崎風景
加野絵画研究室
※ 4,320円



祈りと光の情景
五島の教会とそのルーツ
久保進 フォト歳時記Ⅳ
お問合せ先 電話〇九五九ー七五〇ー八八一 久保循環器内科



祝、世界遺産登録
五島巡礼歩き旅
小川 利昭
※ 1,296円



もう一人の少年使節
ドラード
青山 敦夫
● 1,200円



地方創生の成功法則
―地域振興における効果的な
人口・観光・物産振興政策のあり方―
菊森 淳文
※ 1,620円



未来の長崎の
リーダーたちへ
宮崎 牧子
● 1,404円



キラキラ
人生を輝かせるたった5つの大切なこと
じつなみ
● 1,620円



神様からの贈りもの
幸夏 涼
● 1,296円



きくちゃんのうた
Vol.2
ひらた きくよ
● 1,620円



きくちゃんの詩
ひらた きくよ
● 1,296円



第1詩集
そこに光があるから
北川 暢子
※ 1,080円



グッドなホームの
家づくり50年回想録
岡 修一
◆問合せ先 グッドホーム 電話〇九五ー八四七ー七四二〇



本の内容はホームページでもご案内しています 自費出版サロンゆるり

検索

※はネット通販サイト「長崎社中」の昭和堂・ゆるり
販売本コーナーでもご購入できます。

近日刊行

雲仙普賢岳噴火

太田一也 著

回想録

長崎文献社

1990年から1995年にかけての雲仙火山普賢岳の平成噴火終息から、早や23年余が過ぎた。この噴火は約二百年振りではあったが、噴火の長期化と溶岩噴出量の桁違いの多さや、有史後過去2回の溶岩流とは違った溶岩ドームの形成と火砕流の頻発という噴火様式からすると、普賢岳にとっては、まさに四千年振りの大噴火であった。

この新溶岩ドームは、平成新山と命名され、赤茶けた岩肌をさらし真新しい噴火史を物語っている。その生成は火山にとつ

ては、ごく自然な営みではあったが、社会的代償は余りにも大きかった。活火山の麓に住む者は、その営みを良く知り、共生を図らなければならない。

さて、噴火に際しての我々火山観測陣の使命は、火山現象を可能な限り克明に記録し、火山学の発展に寄与するとともに、社会的には人的被害の軽減に努めることであった。そのため、行政機関の危機管理に進言や助言を行った。その記録と教訓を残すことも、当事者の務めであろう。

これまで公的な記録誌や首長による手記が残されてはいるが、立場上の制約から「実態」の多くが欠落している。しかし、それは已むを得ないとしても、権威ある第三者の間違った発言や記述が度重なり、既成事実化されて行く現実をみると、当事者の一人として放置するに忍びなくなってきた。

そこで厳しいご批判を覚悟のうえで、自分が体験した実態や裏面史を書き残して置くことにした。後世の人々にとって、災害対応の検証や将来への真の教訓を得る材料になることを願い、メモしていたことや考えていたことを取りまとめた。しかし、すべてを知っているわけでもなく、誤解も多々あろう。したがって、本書は、噴火中の私の体験に偏ったものであることをお断りしておく。

なお、平成の噴火を語る時、九州大学島原火山観測所設立の元祖である松下久道九大名誉教授や観測所の設立と発展、噴火中の整備強化にご尽力頂いた地元出身の西岡武夫元参議院議長を切り離すことは出来ない。残念ながら2人とも故人となられたが、振り返ってみると、1967年にそれとも知らず、炭鉱マンから火山研究者へと人生行路を変更し、島原に赴任した直後からマグマの胎動が始まっていた。噴火が始まると西岡代議士は、私の転身と火山観測体制の段階的強化が、偶然にも噴火に向けた地下深部でのマグマの胎動から噴火に至る過程と合致していたことを、「出来過ぎた人生ドラマだ!」と何回も述べ懐かれていた。そのようなことから、プロローグとして、敢て観測所設立とその後

今こそ
明かされる
噴火災害の
真相

火山学者として
生涯を捧げる著者が、
科学者としての
冷静な視点で、
雲仙普賢岳噴火災害の
一部始終を総括。

迫り来る
噴火危機に
人々はどうか
対処したのか

「この歴史に残る
噴火災害を、
正しく記録に残し
後世に伝えてゆくことが
私の使命であり、
今後の防災活動に
役立たせていただきたい。」

著者

雲仙普賢岳噴火 回想録

太田一也 著

判型: B5判 / 頁数: 410頁
製本: 上製本仕様、オールカラー
定価: 10,000円予定(税別)
長崎文献社 刊



太田 一也
(おた かずや)

昭和9年生れ。長崎県南高来郡国見町出身。
昭和33年、九州大学理学部卒業。
昭和61年、九大付属島原火山観測所所長。
平成2年、雲仙普賢岳(198年ぶり)噴火
平成5年、西日本文化賞受賞
平成8年、噴火活動終息宣言、国土庁長
官防災功績者表彰・長崎新聞文化章受章
平成10年、九州大学を退官後、名誉教授
として現在に至る。
平成12年、建設大臣土砂災害防止功労者
表彰 他

の発展の経緯も若干付け加えた。



Life Portrait

ライフポートレート【肖像写真】

「たった一度の人生…たくさんの人と出会い、今の自分がいる」
とてもいい顔です。
ご自分らしい今の姿を、より素敵に残しませんか。
ご来店心よりお待ちしております。



たくさん撮ってお好きな
カットをお選びいただく
システムです。

四切写真1枚(台紙付)
(21.3cm×28.3cm)+データCD



15,000円 (税込)

※土日祝 5,400円up ※焼増 6,200円

※アルバムや額装など、さまざまな商品をご用意しております。お気軽にご相談ください。

美しい写真を撮り続ける
TOTAL STUDIO iKEDA

詳しくは→

写真のいけだ 検索



ご予約は

時津本店 ☎0120-01-8936

中央橋店 ☎0120-02-8936

諫早店 ☎0120-05-8936

あなたの想いを本にしませんか



『ゆるり』とは、囲炉裏の意味。囲炉裏を囲むように、
皆さんで集まっていられる空間に…
との願いが込められています。
和の雰囲気を感じられる空間で、ゆっくりゆるりと、
本づくり談義に花を咲かせてみてはいかがでしょうか。



自分史のススメ

**5名の方へ
プレゼント!!**

ゆるり宛にハガキにて
お申込みください

めがね橋電停そば
ファミリーマートより
入って左側すぐ



自費出版サロン

ゆるり

TEL.095-828-1790

FAX.095-823-8740

<http://www.showado.co.jp>

〒850-0875

長崎市栄町6-23

昭和堂ビル2F



情報誌「ゆるり」は
カタログポケット機能付き
カタログポケットとは？

- スマホ、タブレットで読める。
- 文字サイズを調整できる。
- 音声読み上げもできる。

※音声読み上げにはアプリのインストールが必要です。
PCブラウザは音声読み上げには対応していません。

スマホで読める「ゆるり」 デジタルブック配信開始!

上のQRコードより無料アプリ「Catalog Pocket」を
インストールし、「ゆるり」で検索!!



第92回

長崎交響楽団 定期演奏会



田中俊廣作詩／加藤 豊作曲

男声合唱とオーケストラのための

「海の記憶」

～海へつながる長崎の祈り～

合唱 長崎アカデミー男声合唱団

チャイコフスキー 交響曲第4番

ヴェルディ 「運命の力」序曲

平成30年

12月9日

開場 14:00 開演 14:30



指揮 加藤 豊

長崎ブリックホール 大ホール



入場料 指定席：2,500円 一般自由席：2,000円 学生自由席(大学生以下)：1,000円

■ チケットお取り扱い 浜屋プレイガイド 095-811-1080 絃洋会楽器店 095-821-2326 くさの書店西友店 095-857-2560
長崎交響楽団事務局 095-820-1029 e+ (イープラス)

■ 主 催：長崎交響楽団・長崎アカデミー男声合唱団

■ 後 援：長崎県 長崎市 長崎県教育委員会 長崎市教育委員会 長崎新聞社 西日本新聞社 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞西部本社
NHK長崎放送局 NBC長崎放送 KTNテレビ長崎 NCC長崎文化放送 NIB長崎国際テレビ エフエム長崎 長崎ケーブルメディア 長崎県音楽連盟 (順不同)

お問い合わせ 長崎交響楽団事務局 TEL 095-820-1029 FAX 095-832-6570